

久留米

[July 19, 2017]

高専通信

第85号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

新入生への言葉 「広い視野」(Broad Vision)

久留米高専では、教育理念に「自立の精神」(Spirit of Independence)、「創造性」(Creativity)、「広い視野」(Broad Vision)、「豊かな心」(Humanity)、「社会貢献」(Contribution to Society)を掲げています。そして、そのいずれもが、久留米高専の教育の根幹をなす大切な考え方であり、新入生の皆さんは、5年間または7年間をかけてこれらの理念を体得していかなければなりません。ここでは、このうち「広い視野」(Broad Vision)について、お話ししたいと思います。

久留米高専の学生の最大の責務は、高校初年程度から大学工学部卒業レベルまでのエンジニア育成のためのプログラムに沿って一般教養科目及び専門科目を一つずつ着実に修得していくことにあることは言うまでもありません。その際の学習は「広い視野」から行われることが肝要です。

ご承知の通り、久留米高専は国立高等専門学校機構に属しています。国立高専は、北は北海道から南は沖縄まで全国51の高等専門学校から成り立っています。その意味で、国立高専そのものが、全国的な「広い視野」を持つことを運命付けられていると言っても過言ではありません。

加えて、国立高専機構の中期目標・中期計画には、「グローバルな視野を持って社会の諸課題に立ち向かう、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成する」こと、すなわちグローバル人材の育成が掲げられています。現に、久留米高専では、海外からの留学生を受け入れています。(本年度は新たにマレーシアから2名、モンゴルから1名の留学生を受け入れました。)また、海外の大学等の高等教育機関と学術交流協定を結び、積極的に国際交流を進めています。毎年、科学技術振興機構(JST)の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」(「さくらサイエンスプラン」)や日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(協定受入)により東南アジアの協定大学等から短期留学生を受け入れています。タイの大



久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二

学から外国人研究者として本校に滞在し、高度な研究に従事されている方もおられます。皆さんも、是非ともグローバルな「広い視野」を持ったエンジニアになることをめざしてください。

さらに、国立高専には、社会・産業・地域のニーズに基づいてエンジニアの育成を行うことが求められています。久留米高専の教育・研究は、社会・産業・地域の状況や動向と不可分であり、皆さんは、それらを「広い視野」で見ることができると力を養うことが必要です。

また、学生寮(筑水寮)においては、県内外のいろいろな地域文化の中で育った皆さんが団体生活を行い、「広い視野」で、人間性・社会性・公共性などの資質を磨いています。

この他、「広い視野」は、久留米高専における専門分野を横断した教育や男女共同参画の推進などによっても培われることになります。

付言すれば、この「広い視野」は、多様性(Diversity)ともつながってくるかと思えます。今日の技術科学の世界においては、「多様性」は生物多様性だけではなく、情報社会における「集合知」(Collective Intelligence)という新たな角度から、創造性との連関が注目され、盛んに論究が行われています(例えば、ジェームズ・スロウィッキー(小高尚子訳)『「みんなの意見」は案外正しい』(角川文庫、2009年)、スコット・ページ(水谷淳訳)『「多様な意見」はなぜ正しいのか』(日経BP社、2009年)、西垣通『集合知とは何か』(中公新書、2013年)等)。

新入生の皆さんが、久留米高専において、「広い視野」(Broad Vision)、という土台の上で「創造性」(Creativity)を磨き、「豊かな心」(Humanity)を育み、多様性(Diversity)を認識し、国内だけではなくグローバルな舞台上で活躍する実践的、創造的エンジニアとして成長していけることを心より願っています。

主事挨拶

有名進学校に学ぶ 教務主事 辻 豊



皆さん、こんにちは。「大いに遊べ！」と言っていた立場から、「勉強しなさい！」という立場になりました。「(環境づくりも含めて)いかにして学生に勉強に取り組ませるか！」が二年間の仕事になります。参考になることはないかと思ひ有名進学校の記事を探してみました。開成高校、麻布高校、灘高校、筑波大学付属駒場高校、女子学院・・・いずれの学校も、東京大学等に多くの卒業生を入学させており、日本の政財界を支える人材を輩出していることは間違いのないと思います。面白いことに、いくつかの共通点があることに気が付きました。1)中高一貫教育であること。2)校則が緩く、自由であること。3)生徒会行事を大切に、生徒の主体性に任せて運営させていること。なんとなくわかる気がしました。校則が厳しいと、校則を守ることが目的となり、「なぜその校則が必要になったのか」という点については忘れられてしまいます。それよりなにより TPO を考慮した判断の必要がなくなってしまいます。生徒会行事は、それこそ政治の縮図であり、携わった生徒たちはいろいろなことを学ぶことができます。おそらく、人生において最も多感な時期に6年の年月をかけて、自由な雰囲気の中で、自主・自立の精神がはぐくまれ、人の動かし方などを学んでいるから、日本を動かす人材を輩出することができるのだと思います。「ん？」ちょっと待って。これって、まさに久留米高専の校風ではないか！ということで、守るべきは「自由」ですよね。あ、これらの学校の生徒さんたちは、メリハリの利いた生活をしているそうです。「勉強することを決しておろそかにしていない。」このことをお忘れなく。二年間、よろしくお願いします。

人間力を高めよう！

学生主事 石丸 良平



今年度より学生主事を拝命することとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。4月に始業式がありましたが、その時に私がお話したことを学生の皆さん覚えてますか？忘れた人のためにもう一度記しておきます。①メモを取りましょう。②目標を立てて実行しましょう。③人間力をつけましょう。いずれも社会に出て必要なことです。学生の間のみだからこそ、失敗しながら経験できることでもあります。今のうちに身に付けておいて欲しいと思います。学校は勉強をする場であることはもちろんですが、それだけではなく、卒業後に社会人として生きていく術を身に付ける場でもあります。課外活動、学生会活動、ボランティア活動などを通じて多くの人と出会い、コミュニケーションをとって、自分の人間力を高めていきましょう。ただし、人間力を下げる行為は慎んでください。例えば、校則に違反し、他人に迷惑をかける行為です。違反の程度によっては学校から処分を受けることになります。どのような処分になるのかは学生便覧で確認しておいてください。皆さんの人間力を高める行動に対して、一緒に頑張りたいと思います。

集団生活の中で自立と尊重を目指して！

寮務主事 小田 幹雄



今年度より寮務主事をする事になりました。どうぞよろしくお願いいたします。私事ですが、今年の3月まで米国の大学で多くの寮生と交流を持ちました。そこでは、学業の中、必死にアルバイトをしてお金を貯め、1学期だけでも入寮したいという学生をよく

見かけました。4人部屋の生活という決して快適とはいええない環境なのに、なぜ、彼ら彼女らはそうしたいのでしょうか？ 答えは、通学に時間を取られずに、大学図書館で夜遅くまで思う存分勉強ができるからです。また、各階に RA と呼ばれる寮生の世話係がいて、毎週のように寮生のためにイベントを企画していました。

勉強に対する意欲に感心したことや、楽しいイベントのことを思い出しますが、我々の寮生達にも、同じような志を持って勉強に励み、楽しく生活をしてくれたらと願っています。そのためには、学校側の環境整備はもちろんですが、我々の頼もしい寮生役員に多岐に渡る積極的な活動を期待しています。主事室教員や事務職員のサポートも時には必要と思いますので、気軽に相談してください。

秩序を乱さない自立を寮生が身につけることはもちろんですが、日々の生活ですので、寮生同士が共に尊重し合うことも大切です。お互いの尊重の上に平穏な生活があることに気づいてください。さらに、寮生と教職員が互いに尊重し合うことも必要でしょう。

最後に、筑水寮とつづじ寮が、寮生全員にとって生涯の友人を見つけた良き青春の思い出の場になることを願っています。

グローバル人材育成に向けた一歩

専攻科主事 奥山 哲也



本年度より専攻科主事を務めます。本科生の皆さんとは接する機会が少ないかもしれませんが、よろしくお願いたします。さて、平成29年度の専攻科入学生より英語科目の学力入学試験が TOEIC スコア提出へと変更されたことはご存知でしょうか？最近の傾向としては大学編入学試験、大学院入試や企業採用等においても TOEIC 等を活用して語学コミュニケーション力を測るケースが増えてきています。皆さんの中には“グローバル人材”という言葉聞いたことがあるかと思いますが、このキーワードは海外の人達とのコミュニケーションに加え、チームワークを通じて領域横断的に課題抽出と問題解決に取り組める人材という意味も込められています。当専攻科では、これらの能力がより高まることを目標に、英語力向上の教育プログラムや国内外の大学や大学院と連携した技術者教育を進めています。皆さんに“魅力ある専攻科”を感じてもらうための教育・研究等の環境整備に加え、外部から高く評価される専攻科を目指して取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ブラックスワン

企画主事 江崎 昇二



企画主事の業務内容は、学校の「自己点検評価及び渉外業務」に関することです。学生会で言えば、総務局と渉外局のそれぞれの業務の一部になります。自己点検評価の主な内容は、P D C A (Plan, Do, Check, Action) サイクルの「C」の部分に相当します。渉外業務の主な内容は、ホームページや、この高専通信などの広報活動ならびに国際交流などの推進です。今年度から新たに男女共同参画についても担当します。

表題のブラックスワンとは、「起こりえない」と思われていたことが起こると非常に強い衝撃を与えることのとことです。日本の財政赤字と少子化の現状を考えれば、大学・高専におけるブラックスワンはいつ起きてもおかしくない状況です。「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」(ダーウィンの進化論)

環境は常に変わっていきます。強く賢い久留米高専が、ブラックスワンにも適応できる組織であるために、どう変化すべきかを皆さんと共に考えていきたいと思ひます。

新入生の抱負

今の私、これからの私

機械工学科1年 坂田 瑠琉

私が久留米高専に入学するきっかけになったのは1日体験入学でした。受験校を迷っていた私は機械工学科で3Dプリンターや工場を見学して「久留米高専を受験しよう」と決めました。それは興味からでした。わたしは機械について当時はあまり詳しくは知りませんでした。だから、体験入学以降「詳しく勉強したい」と思うようになりました。

入学してから毎日新しい知識を得ています。授業で一時聞いただけではわからないこともあり、自分には努力が足りないと感じる場面が多くあります。自分の理解不足な部分にイライラしたり焦ったりすることもあります。それでも勉強するのは、これから何を学ぶのか興味があるからです。知りたいことを理解して習得するには、過去に学んだことが手がかりになることもあると思います。今辛いことがあっても後々プラスになると考えて日々を乗り越えていきたいです。

また、高専に入学してから、勉強だけでなく部活動にも力を入れるようにしています。私は現在弓道部に所属しており、一日でも早く上達するようにこつこつ練習を重ねているところです。弓道初心者でしたが、先輩方の丁寧なご指導のおかげで最初のほうは順調に上達していました。しかし近頃は一つできたら他の一つができなくなったりと伸び悩んでいます。でもせっかく始めたからには極めて上手になりたいし、楽しみたいので5年間活動を続けたいです。

私には「将来～の会社に就職したい」という目標がまだ決まっていません。友人の話や自分だけ目標が決まっていなくて不安になります。でも私は、「決まっていなくてもいろいろなことに興味を持って自分の将来に関して広い視野で考えられるんだ」と前向きに考えて日々を送っています。近頃は大学編入か専攻科までは決めていませんが、漠然と進学を考え始めています。学べるチャンスが先にもあるならば、そこでもたくさん勉強して自分の知識を増やしたいと思うようになったからです。5年間という限られた時間でじっくり自分の将来と向き合って、納得のいく進路を決めたいです。

最後に、5年間学校生活を共にするクラスメイト、部活動の仲間へ。久留米高専での5年間は楽しいことばかりではないと思います。うまくいかず悔しい思いをすることなどもあることでしょう。でも、みんなで苦労や楽しさを共有して切磋琢磨し合いながらのりこえていきましょう。集団の一部として、私は何事も全力で挑んでいきます。

5年後の自分へ

電気電子工学科1年 三浦 楓

ぼくは5年後の今、何をしているのでしょうか？
進学をしていますか？ 就職をしていますか？

ぼくは、いまのところ、大学へ進学しようと考えています。今、現在、プログラミングがまったくわからないけれど、5年後には、どうなっているのでしょうか？ 目標としては、（授業科目の）単位はもちろん取って、留年はせずに、「まあ、それなりにいい成績をとってればいいかな。」と、まあ、あまり深く考えてないけど、そんな風に思っています。でも、学校での授業に限らず、家に帰ってからも、授業の課題や予習はしっかりやりますよ。

あとは、部活は5年間、最後までがんばって続けましたか？
ぼくは鳥部に入りました（鳥部って何？って思われる人に説明しておく、ラジコンで飛行機をとばします。ドローンで有名になったよね）。まだ、先輩たちの手伝いしかできないけれど、いつかは自分たちが先輩たちのように大会にでる日がやってくる。今は、何もわからないけれど、5年間がんばっていたら、いろいろな知識が得られて、自分のできる事がたくさん増えていくと思うので、これからもがんばってください。

生活面では、毎日、朝はやくに起きて、学校へ通っているので、今、とても眠たいです。授業中は、居眠りをしないように気をつけましょう。

最後に、久留米高専を卒業しても、先の人生は、まだまだ長いので、いろいろと厳しいこともあると思うけれど、これからも応援しているのでがんばってください。



新入生の抱負

久留米高専に入学して

制御情報工学科 1年 服部 圭吾

久留米高専に入学しようと思ったきっかけは、体験入学のときにプログラミングの事を聞いてとても心が引かれたことです。その時から必死に勉強して無事に入学し、もう三ヶ月が経とうとしています。

高専に来て最初の大きな行事として夜須研修がありました。入学当初は緊張のせいかなあまり話さず、この先不安があったのですが、そんな不安はすぐなくなりました。それは、研修を通してみんなと協力したり交流したりできたからです。一日目には、まずオリエンテーリングがありそこでは、班のメンバーと協力し、簡単な地図とコンパスを持ってポイントを探しながら歩きました。班のメンバーとの会話も弾み、楽しむことが出来ました。また、学科対抗のポイント勝負で一位になる事ができ、絆が深まった気がしました。その後、クラス交流会にて、一人ずつ自己紹介をしていき、先輩方から、高専の紹介や今後の行事などの説明がありました。それを通して、今後の生活が楽しみになりました。二日目はまず校長先生の話聞いて、高専生としての自覚を持ち、これからの目標を立てました。それから、レクリエーションがあり、学科対抗の競技で白熱した勝負が出来ました。結果、制御科は一位だったのでみんなで大喜びしました。

研修から少し経って、クラスマッチがありました。その中で、長縄が学年で一位だったのでこれも皆で喜びあいました。

これらの行事は、全て先輩方が考えて、行ったものです。そこで、私も何かしたいと思って体育祭実行委員に入りました。これから、皆が楽しめるような体育祭を目指して頑張りたいと思っています。

部活動は、ハンドボール部に入部して、毎日練習に励んでいます。部活動を通して良い先輩方や、他学科の友達と知り合うこともできました。その中でただ練習するだけでなく社会に出ても大丈夫のように色々なことも学んでいきたいと思っています。

先日、初めての中間考査がありました。皆でそれに向けて一生懸命に、たがいに教えあいながら頑張りました。先輩方からも教わる事ができ、高専の良さが少しわかってきた気がします。

高専生としてこれから過ごしていくにあたって、「自分で行動する」という能力を伸ばしていきたいと思っています。まだまだ、このことに慣れないのですが、少しずつでも自分で考え、責任のある行動が出来るようにたくさんの経験をとおして頑張っていきます。

久留米高専に入学して

生物応用化学科 1年 上原 実芳子

久留米高専に入学して、約2か月が経ちました。たった2ヶ月の間ですが、たくさんの思い出を作ることができました。

入学式の前日に入寮し、初日は不安と緊張ばかりでした。しかし先輩方が優しく接して下さったお陰で、その不安は無くなりました。寮での仕事を丁寧に教えて下さったり、学校生活のことも気にかけて下さったり、そんな頼もしくて優しい先輩方をとても尊敬しています。入学式の約1週間後、いくつかの部活を見学し、私は合気道部に入部しました。合気道の技がかっこよかったのと、部活の雰囲気が良いなと感じたからです。上達するように毎日頑張ります。4月の後半には、夜須研修に行きました。過酷な道を一生懸命進んだオリエンテーリング、面白くてためになった学科紹介、とても盛り上がった最終日の交流行事など、楽しい思い出がたくさんできました。たくさんの人と話すこともできました。今こうしてクラスの人と仲良く楽しく過ごしているのは夜須研修のお陰です。学科紹介では、中央執行委員会の紹介があり、私はそれを見て、中央執行委員会にも入りました。中学生の頃は生徒会活動をしていなかったもので、楽しみです。初仕事は、5月半ばのクラスマッチでした。中学校とは違い、学生が主体となって学校行事を運営するので、中央執行委員会はとても大事ななと思いました。私はそのクラスマッチの競技には参加していませんでしたが、クラスの皆の生き生きとして楽しそうな表情を見ているだけで楽しかったです。私たちのクラスは良い結果も残せました。次回のクラスマッチも楽しみです。

高専は5年間あり、さらに普通の高校よりも自分の時間を多くとることができるので、じっくり自分と向き合い、そして自分のしたい事をたくさんしたいです。自由な環境ですが、節度は守って遊んでばかりにならないようにしっかり勉強を頑張ります。これから5年間という長い間、同じ仲間と過ごしていくので、楽しい事や嬉しい事、悔しい事、悲しい事などをたくさん一緒に経験し、大きく成長できたらいいなと思います。また、この先長い間で時には悩んだり、困ったりすることもあるでしょう。その時は、皆で協力して乗り越えて成長し合える、そのような関係を築けたらいいなと願ってやみません。そして、しっかりしていて責任感のある級長と面白くて不思議な先生と皆で楽しい学校生活にしていきます。

新入生の抱負

久留米高専に入学して3ヶ月が経ちました
材料システム工学科1年 榎原 睦樹

久留米高専に入学して3ヶ月が経ちました。その期間は自分にとって長くも短くも感じられるものでした。なぜなら、その期間でたくさんの方があったからです。

入学当初、これから始まる高専生活に期待をする気持ちもあれば、勉強面や友達関係への不安などがありました。しかし、時間が経つにつれて友達も増え、一緒に勉強することもあり、毎日が楽しく感じれるようになっていきました。

それから間もなくして、夜須研修やクラスマッチが行われました。夜須研修では、フィールドワークやレクリエーションなどが行われました。研修でしたことはどれも楽しい思い出ですが、私が一番心に残ったのは、一日目の夜に行われた自己紹介です。理由はクラスメイト一人ひとりの個性が良く出てたからです。クラスマッチでは、バスケ、サッカー、バレーなどの競技が行われました。自分はサッカーとバレーにでました。どちらもして楽しかったし、他のクラスメイトがしているところを見てもみんな楽しんでいるし、チームワークも良く、クラスの仲がより深まったと感じました。

また、部活動も充実したものになっています。私は卓球部と軽音部に入りました。卓球部では、先輩方は学校生活や卓球についての質問にいつも優しく対応してくれてこの部活に入ってよかったと思いました。軽音部では、先輩方がとても面白く楽しい時間を過ごすことができています。ギターの講習会では丁寧に教えてもらい、成長を感じることができてます。

そうこうしているとテスト期間になりました。高専は授業が90分で赤点も60点未満なので緊張していました。自分は幸いにも赤点はありませんでした。周りの友達に赤点を取った人はたくさんいました。私は、せっかく仲良くなった人たちと一緒に進級できないのは悲しいので、これからは、自分がわかるところは周りの人に教えていきたいです。

私は行事に参加することで高専の「自由」を知ることができました。高専は楽しいことであふれかえっています。しかし、しなくてはいけないことはしっかりしないとけません。自分の頭で考えたことを行動に移す。それが「自由」だとわかりました。そういう「自由」はほかの高校にはなかなかないのでそれを大切にたくさんの方を考え、将来の夢をかなえるためにも学問は怠らず、楽しむことは全力で楽しみたいです。

留学生紹介

留学生紹介

機械工学科3年 アン シアン チン

初めまして、アン シアン チンと申します。アンと呼んでください。マレーシアから参りました。今年の三月に来日し、今は機械工学科で勉強しております。実は去年の三月に八戸高専へ二週間ほど見学に行きました。ですから、「初めての日本」はここではなくて、東北の八戸です。

何をきっかけにして日本に来るのですかと聞かれれば、日本語の平仮名、カタカナと漢字に興味を持っていると答えます。しかし、一番の理由は国から奨学金をもらったからだと思います。

久留米高専に来る前に、マレーシアでKTJという、日本に留学するための予備コースで日本語を2年間も勉強しましたが、初めての留学はまだ色々不安があります。ですが、ここに来てから、思ったより便利なので、生活しやすいと思っております。それに、先生方は親切にしてくださって、もちろんクラスメイトの皆さんもよくマレーシアのことにつきまして聞いたり話したりしてくれます。

日本人の友達を作りたいので、先生の勧めでバレー部に入部し、部活の皆さんと一緒に練習したり色々交流したりして、楽しんでおります。バレーボールの基礎は全くなかったのですが…

マレーシア頑張りましょう！日本頑張りましょう！これからも何卒宜しくお願いいたします。

機械工学科3年 ツェレンドラム

はじめまして、ツェレンドラムと申します。今年モンゴルから来た留学生です。機械工学科の三年生です。世界的に技術で優れている日本に、特に久留米工業高等専門学校に留学できてたいへんうれしいです。私の趣味はインターネット上で面白いビデオを見ることです。好きな科目は物理です。最初は心配することがたくさんありましたが、やさしい先生たち、同級生、寮生、学校で働いている人々のおかげでいろいろな問題を解決できています。機械工学科3年は4年5年と比べて簡単だと聞いていましたが、前期中間試験は難しかったです。しかし、このまま皆様と一緒に頑張っていけば大丈夫だと思っています。どうぞよろしく願います。

生物応用化学科3年 ダニエル

はじめまして。生物応用化学科三年生のダニエルと申します。マレーシアから参りました。今年から日本にきて、久留米高専に入学しました。僕一人だけではなく、お友達のアシ君と一緒にです。僕たち二人とも日本に来る前に、KTJというプログラムで約二年間日本語の勉強をしてきました。でも、日本語はそんなに上手ではないです。そのため、日本語で話したりレポートを書いたりするのは僕にとって大変なことです。国で小学校から受けた授業はほとんど英語や国語でやったので、日本語で授業をやると分かりにくくなります。それでも、頑張るしかありません。また、僕は大人しい性格なので、仲がよい友達としか話さない傾向があります。あまり知らない方に声をかけるなんて僕にとってきついです。でも、皆さんと話したくないわけではないです。

日本に留学するのは僕の夢のひとつでした。今この夢が叶ってきて、とてもうれしいです。やはり日本は本当に寒くて、きれいで、思った通りすばらしい国です。日本にいるうちに、僕はいろいろな食べれる和食を食べてみたり春夏秋冬四季を過ごしたりしたいです。その上、他の高専に友達がいるので、彼らのところへいきたいです。そうすると、日本を見回れるようになると思います。勉強のことはもちろんですが、これらのこともしたいです。皆さんと友達になることも僕の願いです。

皆さん、この三年間よろしく願います！

新任教職員紹介



掛橋 英典
 所 属 電気電子工学科
 職 名 教授
 採用日 平成29年4月1日
 前 職 津山高専総合理工学科
 電気電子システム系教授

抱 負 岡山県北、中国山地に囲まれた城下町にある津山高専からこのたび人事交流で参りました。滔々と流れる筑後川のほとりでヒバリやカササギの鳴き声が聞こえる久留米高専はたいへん素晴らしい環境にあると思います。出身は九州なのですが、約30年ぶりにこちらの方言に触れなつかしく感じるとともに学生諸君との交流を楽しみにしています。授業や校務など視野を広げると同時に皆様のお役にたてるよう尽力していきたいと存じます。短い期間ですがどうぞよろしくお願い致します。

趣 味 前職では合唱部顧問として混声合唱のピアノ伴奏をやっていました。人の声は年齢とともに変化していきますが、十代の若者の歌声は清らかで素晴らしいと感じる今日この頃です。



田中 諒
 所 属 制御情報工学科
 職 名 助教
 採用日 平成29年4月1日
 前 職 明治大学研究・知財戦略機構
 研究推進員

抱 負 11年ぶりに地元久留米市に活動拠点を移すことができました。前任校で培った教育と研究の経験を、単なる専門知識の共有のみならず、学生一人ひとりが自発的に学び、考え、行動することで、強いリーダーシップを発揮できる総合的な人間力の育成のために活かしたいと考えております。ただ、高専での生活は初めてのことで、まずはいち早く校内の雰囲気慣れることから始め、私も皆様とともに成長したいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

趣 味 旅行、サッカー観戦とプロ野球観戦



森園 靖浩
 所 属 材料システム工学科
 職 名 教授
 採用日 平成29年4月1日
 前 職 熊本大学
 大学院先端科学研究部 准教授

抱 負 熊本大学には学生として9年間、教員として22年間、合計31年間お世話になりました。現在、本校に赴任して約3ヶ月が経過しましたが、前職と同様、材料工学に関する教育・研究の推進が主な仕事になっております。大学との大きな違いは、学生の皆さんがとても若く、元気なことです！学生一人一人の可能性を大切にしながら、今後も人材育成に努めて参ります。ご指導ご鞭撻の程よろしくごお願い申し上げます。

趣 味 クルマ・船・飛行機など、乗り物の写真撮影や情報収集が大好きです。



小袋 由貴
 所 属 材料システム工学科
 職 名 助教
 採用日 平成29年4月1日
 前 職 宮崎大学大学院博士後期課程

抱 負 本年度4月より材料システム工学科に着任しました、小袋由貴と申します。社会人一年目で未熟な部分も多くあるかと思いますが、皆さんの温かいご指導の下、久留米高専での教員生活を一つずつ歩んでおります。

授業は、材料工学科5年生の卒業研究、4年生の材料化学Ⅱ、3年生の学生実験を担当させていただきます。学生のみなさんとコミュニケーションを取りながら、明るく元気に、一緒に成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

趣 味 読書、ドライブ



酒井 健
 所 属 一般科目(理科系)
 職 名 教授
 採用日 平成29年4月1日
 前 職 有明工業高等専門学校
 一般教育科 教授

抱 負 有明工業高等専門学校一般教育科から高専間人事交流で来ました酒井 健(さかい たけし)です。高専に努めて21年間で過ぎ、自分の狭い知識や考えにとらわれず、他の世界(久留米高専)を見聞して自分自身を高めようと思い、やって来ました。専門分野は磁性や超伝導などの物性科学、担当科目は物理、顧問をしている部活動はソフトテニス部です。同じ高専でも学校が違えば、職場の環境や学生の雰囲気、教育・研究活動への取り組み方など様々な点で異なっていることに驚かされつつ、良い刺激を受けながら充実した毎日を送っています。1年間という短い期間ですが、みなさんと一緒に楽しみながら色々な事に積極的に取り組んでいこうと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

趣 味 子供と一緒にスポーツをしたり、遊びに出かけること。

新任教職員紹介



津田 雅弘
所 属 総務課
職 名 総務課長
採用日 平成29年5月1日
前 職 九州大学
学務部基幹教育課課長補佐

抱 負 5月に九州大学から本校に着任致しました。前職は主に初年次学生の基幹教育を担う基幹教育院に関わる業務に携わっていました。高専は未知の領域ですが、早々に風土環境に馴染み、大学やJSPS等での経験を糧に、学生の皆様、教職員の皆様のお役に立てるよう尽力していきます。関係の皆様の暖かいご指導をよろしくお願い申し上げます。

趣 味 特にありません。セカンドライフのため持たねばと思っています。



西依 寿美代
所 属 学生課学生生活支援係
職 名 事務補佐員
採用日 平成29年4月1日
前 職 櫛原中学校事務補助

抱 負 4月より学生課で勤務させていただいております。これまで小学校・中学校の事務補助として勤務しておりましたが、高専は今までの学校とは全く違う雰囲気でもとても新鮮さを感じております。1日でも早く業務に慣れるよう頑張りたいと思います。また、学生課ということで、多くの学生の方、先生方と接する機会が多いと思います。明るく朗らかに対応できるよう心がけていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

趣 味 読書・生け花



岩橋 道宏
所 属 総務課施設係
職 名 施設係長
採用日 平成29年4月1日
前 職 北九州工業高等専門学校
総務課施設係長

抱 負 平成29年4月1日付けで、久留米高専総務課施設係に転任してまいりました。岩橋と申します。久留米高専では、学内の施設整備を進めて行き、学生及び教職員の皆様が、快適に学校における活動が円滑に出来るよう、施設業務を進めて行きたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

趣 味 ドライブ、映画鑑賞、スポーツ観戦



石井 眞弓
所 属 学生課 寮生活支援係
職 名 寮母
採用日 平成29年4月
前 職 久留米市役所嘱託

抱 負 4月につつじ寮の寮母として採用になりました。今まで、看護・介護業務に45年ほど携わってきました。今回初めて学生さんと接します。戸惑っていますが、気軽に声かけられる「寮母のおばちゃん」を目標にしています。よろしく、お願いします。

趣 味 家庭菜園



塩崎 歩美
所 属 総務課総務係
職 名 係員
採用日 平成29年4月1日

抱 負 社会人1年目で不慣れな私を、温かくサポートして下さる先輩職員のみなさんや先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。早く久留米高専に貢献できる職員となるように、精一杯頑張ります。

趣 味 ピアノ演奏(大学で専攻していました)・カラオケ・音楽鑑賞・スポーツ観戦(フィギュアスケート、相撲、野球など)・電車に乗って旅をすること



高橋 杏菜
所 属 学生課寮生活支援係
職 名 事務補佐員
採用日 平成29年4月1日
前 職 住宅営業

抱 負 4月より寮生活支援係に採用となりました。高橋と申します。前職では営業をしていたので、なかなか慣れない環境の中ではありますが、早く業務を覚えて皆さんのお役に立てるよう努力してまいります。少しでも寮生活が良いものになるようお手伝いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味 映画鑑賞、写真

公開授業

保護者の皆様への公開授業について

教務主事 辻 豊

保護者の皆様への公開授業を4月17日(月)～4月19日(水)の3日間実施しました。授業開始は10日(月)でしたので、見ていただいたのは2回目の授業ということになります。合計169名(1年生:94名、2年生:36名、3年生:14名、4年生:20名、5年生:5名)の参加がありました。やはり、1年生の保護者の方の関心が高いようです。(多数のご来校ありがとうございました。)

ご回答いただいたアンケート結果は、開催時期:適切(98%)、授業:わかりやすい(95%)、学生:真剣に取り組んでいた(87%)となっており、おおむね良好だったようです。

授業に対するご意見では、「熱のこもった授業ですごくよかった。」、「学生の授業態度が素晴らしく、安心しました。」、「授業が楽しそうだった。等の良い意見が見られる半面、「授業が長いので、メリハリが必要。」、「学生に元気がないように感じました。」等の意見もありました。また、公開授業に関しては、「教室に入りにくかった。」、「担任の先生とお話しできてよかった。」、「このような機会を増やしてほしい。」等のご意見が書かれていました。いただきました貴重なご意見は、今後の授業や学校の改善に役立てていきます。

いじめ防止講演会を受けて

生物応用化学科1年 瀧本 未来

私が驚いたことは二つあります。一つ目は、いじめはいつでもどこでも起こる可能性があるということ。二つ目は、小学校高学年～中学校の中でいじめの被害者になったことがあるのは八割もいるということです。予想以上の数値でした。

ここから私は、いじめられたことがある人がいるのになぜいじめは減らないのだろうと思いました。私は周りの人が止めないからだと考えます。周りで見ている人の中にはいじめの被害を受けたことがある人だっているはず。いじめの苦しみや辛さを知っています。いじめの被害を受けたことのない人でも、苦しみや辛さは分かるはず。いじめの被害者は友達に止めてほしいと思っています。そのため、友達に相談しているはず。相談していなくても助けてほしいというサインを出しているはず。周りの人は少しでも早くそれに気づき、助けましょう。

いじめがひどくなると、いじめが風景の一部にしか映らなくなり。被害者は、反撃も脱出もできない自分がどんどん嫌になっていき、加害者がいないときでもいるように感じます。おかしいことだと思いませんか？

いじめが起こった場合、周りの人は被害者の安全確保をし、孤立感の解消をしましょう。大人の責任ある保障の言葉と実行も大切です。

私はみなさんに、いじめは人間不信や不登校・引きこもり、ときには自死をもたらすということを知っておいてほしいです。そしていじめは侮辱罪や傷害罪、名誉棄損罪などを問われる犯罪です。絶対にしてはいけません。

いじめが世界から一日でも早くなくなることを願います。

就職支援セミナー

中央執行委員会副委員長
機械工学科4年 武内 蓮治

平成29年4月12日16:00～17:30、D2教室にて、株式会社魚国総本社九州支社さんの協力を得て、同社の田川剛氏を講師として迎え、就職活動を控える本科5年生に向けて、就職支援セミナーを開催いたしました。

セミナーには総勢38名が参加し、就職活動に対する注意点について講習を受けました。90分といった短い時間の中、服装をはじめとした基本的なマナーや、挨拶やお辞儀、面接対策、お礼メールの送り方といった細かい点まで教えていただきました。私自身も就職希望の学生であったので、為になるお話を聞くことができました。

また、今回のセミナーに関するアンケートも併せて実施いたしました。集計したところ、「開催時期を早めてほしい」、「実技などの実践的な項目を増やしてほしい」といった意見が多くありましたので、来年度以降開催する際に参考にさせていただきます。こういった行事は希望進路が就職・進学に関わらず、自身の為にもなりますので、積極的に参加していただきたいです。

最後になりましたが、この企画を開催するにあたり支えてくださった学生主事室の先生方、学生課の方、何より参加していただいた学生の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。来年度も是非ご参加ください。

クラスマッチ報告

前期クラスマッチ

中央執行委員会体育局局长
生物応用化学科3年 森 虎之助

夏の訪れを感じさせるような陽気のなか、5月15日、16日に前期クラスマッチが行われました。天気にも恵まれ、心地よい風と共にサッカー、バレー、女子バレー、バスケ、女子ドッジ、長縄の六種目を行いました。

それでは、結果を発表したいと思います。

バスケは同学年同士で行われる競技なので体格や体力に大差はなく、どの学年も最後まで頑張っていました。1年生は1位電気2位材料、2年生は1位電気2位機械、3年生は1位化学2位材料、4年生は1位機械2位化学、5年生は1位機械2位化学、という結果になりました。

バレーは1位4年化学、2位4年機械3位5年材料となり、決勝戦では4年生同士の素晴らしい戦いが見られました。惜しくも敗れた4年機械には、後期でのリベンジを頑張ってください。

サッカーは1位5年電気、2位3年機械3位2年電気と、バレーより低学年の活躍が見られました。

高学年になると体力が落ちているクラスも少なくないため、低学年の活躍のチャンスがあるのかもしれません。

女子バレーはふくかぶる、女子ドッジはティライミが優勝しました。こちらは高学年の活躍が目立ちました。低学年のチームではクラス一丸となって応援しているクラスもあり、どちらも一歩も譲らない戦いでした。

大縄跳びでは異例の1年制御科と化学科の同率一位となりました。全体でみてもこの二クラスの回数は素晴らしく、今後も一位争いを続けることでしょう。



文化部発表会

文化部発表会

文化部発表会実行委員長
機械工学科4年 田中 暁

6月24日土曜日に第六回文化部発表会が行われました。当日の天候はあいにくの雨であったにもかかわらず、来場者数はのべ885人(実行委員による計測)でした。

ステージで行われた軽音楽研究部の6組のバンド(弾き語りも含む)による演奏は例年以上の盛り上がりを見せ、バンド演奏のトリを務めた「STAG HORN」のステージはライブハウスさながらの熱さでした。それから、実行委員会のイベント部署が考案、運営したイベントも大変盛り上がりしました。午前中に行われた「ネリーグ」ではスクリーンを用いて映像も合わせて観客の皆さんに楽しんでいただきました。本家に見劣りしない完成度であったのではないのでしょうか。そのほかのイベントも創作的で非常に面白かったです。高専祭のイベントにも期待できます。そして入学してまだ三か月の一年生達による一年生コンテストでは体育館いっぱいに来場者が入り、五学科各クラスがダンスや歌を披露しました。なかには、某お笑い芸人のパロディーを披露し会場を笑いに包んだクラスもありました。本コンテストでは一年機械工学科が優勝しました。他にも、吹奏楽部によるビッグバンドならではの包みこまれるような広がりがあり深い演奏、ダンス部による時にはキレのある時には妖艶な圧倒的ダンスが披露されました。

また、第一、第二体育館やウェーブホールで、自動車部・写真部・自然エネルギー部・美術部・新聞文芸部・プログラミングラボ部・ロボットコンテスト部・鳥部が日ごろの活動の成果を展示で表現しました。

これらのも盛り上がりは実行委員会だけでは不可能でした。展示・出演いただいた文化部、学生課の方々、中央執行委員会の方々、そして、お越しいただいた多くの皆様、他にもたくさんの方々のご協力のおかげで本文化部発表会を成功させることができました。実行委員会の未熟なところも多々あったかと思いますが準備・運営にご協力いただきありがとうございました。

今秋に開催されます高専祭にもご期待ください。



寮行事

寮の行事報告

寮生会広報委員長 高石 昂汰

対面式

4/7(金)夕食時に寮内食堂にて対面式が行われました。新しく入寮した寮生の自己紹介や寮の事務の先生の紹介、寮務主事と寮長からの挨拶などが行われました。寮務主事のあいさつの後にはお寿司を寮生全員で食べ、新入寮生は寮生同士の親交を深めることができました。



避難訓練

4/13(木)の午後16:30避難訓練が実施されました。寮に災害が起こったという想定のもと、避難経路や集合場所、点呼方法などの確認を行いました。寮生たちは避難経路として、寮内を出た後小森野コミュニティーセンターに徒歩で避難しました。その際、消防隊長の河野君(機械工学科4年)を中心とした寮生会役員が中心となり避難経路の確認と寮生の安全を確認し、寮生を誘導しました。寮生の迅速な行動により円滑に避難訓練を実施することができました。



寮祭

4/15(土)に午後から寮祭が行われました。外国人留学生を含む約160人が参加し、昼間は学年学科混じったチームでサッカーとドッチボールを楽しみました。夕方からのバーベキューでは寮生同士の交流も行われ、寮生たちはとても楽しそうに食事をしていました。午後の運動や夕方からのバーベキューを通して寮生たちは親交を深め、新入寮生や上級生とも交流できたようです。寮祭は文化委員長 南竹君(生物応用化学科4年)の運営により楽しい寮祭となりました。



テーブルマナー講習会

6月11日(日)の13時30分から15時にかけて、寮食堂にてテーブルマナー講習会が行われました。日頃から私たち寮生に食事を提供してくださっている株式会社魚国総本社九州支社の協力のもと、コース料理におけるテーブルマナーを、実際にコース料理を楽しみながら学びました。講習会には正装に身を包んだ20名程の寮生が参加して、コース料理を慣れない手つきで楽しんでいました。テーブルマナーについて、普段あまり意識することは少ないと思われませんが、この講習会を通して参加者たちは正しい知識を得ることができたと思われま



今後の行事予定

今後、筑水寮、つつじ寮ではこのような行事を予定しています。

行事予定			
10月11日	防災訓練	12月 9日	寮 祭
11月11日	料理教室	1月10日	成人式

部活動

全国高専選手権大会優勝

女子バレーボール部
制御情報工学科5年 平嶋 莉奈

この度、女子バレーボール部が、平成28年度第5回全日本高等専門学校選手権大会バレーボールフェスティバルにて、優勝することができました。昨年度の全国高専大会優勝に続き、2回目の全国優勝になります。振り返ってみると、私が入学した頃の女子バレー部は、勝負にこだわらず、ただ楽しくバレーをするような部活でした。1年間のうちに行う試合も10セット未満で、唯一参加していた九州高専大会でも負けることが当たり前のチームでした。そんな部活を変えることを当時の部員達で決意し、勝負できるチーム作りを始めました。具体的には、週2回程度の練習を週6~7回に増やし、顧問の先生方をお願いして、土日は可能な限り、近くの高校と練習試合を組んでいただきました。また、練習試合後はスコアシートを基にミーティングを行い、皆で意見を出し合うようにしました。現在では、1年間に300セット以上の試合を行う部活になり、平成28年度3月に兵庫県で開催された全国高専選手権大会で初優勝を勝ち取ることができました。今日も、夏の全国高専大会2連覇に向けて日々練習に励んでいますので、応援よろしくお願ひします。

福岡ビジネス・デジタル・コンテンツ賞
2017にて「ヤング賞」と「katchaman賞」
を受賞プログラミングラボ部
制御情報工学科3年
堤 幸太郎 高巢 彩七 田中 志穂

今回、水を使った新しいエンターテイメント作品を作ろうと考え、指で水槽の水面を触ると、ピアノを弾いているような音が流れる「うゑーぶ! -Water Music Entertain-」という作品を作り、福岡ビジネス・デジタル・コンテンツ賞2017にて「ヤング賞」と「katchaman賞」を受賞することができました。プログラミング言語はC#を使い、画像処理はOpenCVでC++を使用しました。製作の際は、技術面よりも、メンバーとの意思疎通や、作品への認識を共通させることが難しかったですが、水面の揺らぎを検知し、ピアノに近い音を出すことができた時は達成感を感じました。さらに精度を向上させることができれば、新しい楽器として世の中に出したいと思ひます。



材料工学科から『材料システム工学科』への名称変更について

材料システム工学科長 川上 雄士

平成 29(2017)年 4月 1日 から材料工学科は、『材料システム工学科 (英語名: Department of Materials System Engineering)』へ学科名称の変更を行いました。

久留米高専での材料系の学科は、昭和37(1962)年4月に久留米工業短期大学に金属科が設置されたことにはじまり、昭和39(1964)年4月久留米工業高等専門学校設立時に金属工学科として製錬工学、金属材料学、金属加工学を中心に金属に関する教育を行ってきました。その後、昭和62(1987)年4月に材料工学科として学科の改組を行い、物質の化学や物性等の専門基礎をもとに、金属及び無機材料の材料加工に重点を置いて教育を行ってきました。学科改組後30年が経過し、その間の科学技術の進歩はめざましいものがあり、材料系の高等教育機関に求められるものを学科教員を中心に、学科OB/OG、関連大学の教員、企業技術者等からの意見も参考にして学科名称の変更を検討してきました。

その結果、材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、廃棄、リサイクルまでを『材料のシステム』としてとらえ、そのことを学ぶことのできる学科にふさわしい名称として『材料システム工学科』にすることにしました。

『材料システム工学科』には産業界等から以下のような社会的ニーズがあります。

- ・材料技術にベースを置きながら設計・製図等の機械的技術を習得する技術者を養成する必要があります。
- ・高度経済成長期に整備された社会インフラの長寿命化、メンテナンス等「安心・安全」な社会を実現するためのニーズが増えています。
- ・金属・セラミックス・高分子材料に関する技術に加え、ものづくりに関わる広範囲にわたる工学知識を持つ技術者への要求が高まっています。
- ・材料は我が国の科学技術・工業の競争力を支える基盤であるが、材料工学系学科を置いている高専は全国に4校のみであり、材料工学教育の底上げが必要です。

これらの社会的ニーズに対して、『材料システム工学科』へと学科名称を変更し対応します。

また、学科名称の変更には、以上に加えて次のねらいもあります。

- ・中学生、在校生にとって学科の教育内容を理解でき、魅力ある学科名称とします。
- ・学科名称の変更に合わせてカリキュラムの変更を行い、グローバル人材育成に関する産業界等からの要望に応えることのできる学科とします。

新しくなりました『材料システム工学科』での教育・研究にこれまでと変わらぬご支援・ご協力をいただきますようお願い致します。

材料システム工学科名称変更記念講演会の開催報告

材料システム工学科長 川上 雄士

材料工学科から材料システム工学科へ学科名称の変更を記念して、4月19日に『材料システム工学科 学科名称変更記念講演会』を行いました。

記念講演会の講師には、本校金属工学科第12期の卒業生である東京工業大学 物質理工学院 材料系 教授 熊井 真次 先輩をお招きしてご講演をいただきました。

記念講演会には、本科1～5年生の約200名が参加し、あわせて、講演会当日は公開授業の期間であったため、保護者にもご案内し、約20名の保護者のご参加もいただきました。

ご講演の演題は「材料との出会い ～久留米高専での日々とその後の道程～」で、熊井先輩が高専に入学され、金属工学科を選択された経緯、高専での勉強の様子、とくに部活動(英語部)での活躍の様子や、寮生活などについて昔の白黒写真を見せていただきながらお話をしていただき、学生たちには新鮮に感じられ、とても興味深く聞いていました。入学当初は、金属のこともよくわからないまま入学し、その後高専で学年が進むにつれて専門の勉強がおもしろくなってきたとのお話しでは、現役の学生にも通じるものがあったようです。

熊井先輩は、久留米高専卒業後に東京工業大学へ編入学され、その後学部、修士、博士課程を修了されました。

「アルミニウム基および銅合金の偏晶凝固に関する研究」により工学博士号を取得され、東京工業大学に助手として採用され、その後、助教授、教授として多くの金属材料を学ぶ学生を社会に送り出されています。その中には久留米高専の卒業生も多くおり、材料工学を学ぶ学生のキャリアパスの紹介もしていただきました。将来の進路に対して不安を抱いている学生や保護者にとってはとても参考になるお話だったと思います。

当日は、話題が満載であったため予定時間を越えてのご講演になり、学生との質疑応答に十分な時間を取れなかったことが残念でした。

翌日には、専攻科の学生を対象に『資源を活かし環境を守るプロセス技術と材料の開発』と題して、より技術的な内容のご講演をしていただきました。

新しくなった『材料システム工学科』から、熊井先輩に続く優秀な学生が育っていくことを希望します。

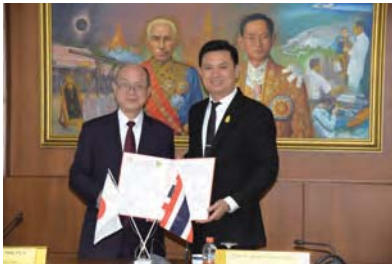


キングモンクット工科大学ラカバン情報学部と学士／修士並行プログラムに関する合意覚書の締結

平成29年3月30日、タイのバンコクにあるキングモンクット工科大学ラカバン情報学部と本校との間で、学士／修士並行プログラムに関する合意覚書を締結した。当日、本校三川謙二校長及び池田隆専攻科主事がキングモンクット工科大学ラカバンを訪問し、スーチャチャトヴィー・スワンサワート学長及びノポン・チョアチカカムソロン情報学部長とともに同覚書に調印した。

この覚書により、本校の専攻科学生が在籍2年目にキングモンクット工科大学ラカバン情報学部大学院の修士課程に特別聴講学生として登録し、専攻科修了後に同大学院の修士課程に進学することによって、同大学院に1年間在籍するだけで修士号を取得できるようになった。修士課程の修了要件は、国際学会での論文発表が2件以上あること等となっているが、この覚書が本校の専攻科教育を非常に高く評価していることは注目に値する。

覚書締結によって、本校のグローバル人材育成教育と両校の共同研究の更なる発展が期待される。



合意覚書を持つ三川校長（写真左）とスーチャチャトヴィー・スワンサワート学長（写真右）

久留米工業大学と連携・協力に関する覚書を締結

去る6月1日、久留米工業大学において、久留米工業大学との連携・協力に関する覚書を締結した。

この覚書は、久留米地域の工学系高等教育機関として、本校と久留米工業大学とが、より緊密な連携・協力関係を確立することを目的としたもので、主な連携事項として①共通教材の開発に関すること②学生の編入学に関すること③共同研究に関すること④研究施設の利用に関することを挙げている。

調印式後早速、連携に向け、連携研究の事例発表や久留米工業大学の施設見学が行われた。

本校と久留米工業大学は、これまでも高等教育コンソーシアム久留米という組織的なつながりがあったが、今回の覚書の締結により、より強固な連携協力が期待される。



覚書を持ち、握手を行う久留米工業大学今泉勝己学長（写真左）と三川謙二校長（写真右）

施設見学（ものづくりセンター）の様子

久留米高専OBで直木賞作家の安部龍太郎先生の講演会

5月20日に、D4教室において、本校機械工学科卒業生で直木賞作家の安部龍太郎先生を講師として、久留米高専第12期還暦同窓会記念講演会が開催されました。

講演の演題は「作家の生き方」。安部先生は、卒業生・在校生合わせて200名を前に、ご自分の高専時代の経験、作家修業時代の苦しみ、直木賞受賞の背景などを、ユーモアを交えて切々と語られました。

とくに、「ラグビーの怪我で休学し、法律家をめざしたが、その折に文学に出会った。文学を通じて、この世には自分よりもっと深い苦しみの中にある人がいることを知り、人生の袋小路から脱出できた」「作家修業時代のインド旅行で、人間は生きていること、そのままで尊いということが分かった。人の優劣はこの世の限りの約束で、普遍的なものではない。そこから自由に、自分の信じた道を行くのがよい」などの箴言に聴講者は心を打たれていました。

ご講演の後、在校生から安部先生に対して、「図書館司書を辞めてプロ作家の道を歩まれたとのお話ですが、うまくいかなかったとしても後悔していないか」「高専で機械工学を学んだことは作家活動に影響しているか」「執筆中ペンが止まった時にはどうやって打開しているのか」など活発な質問もあり、講演会は盛会のうちに終わりました。

なお、講演会の前に、第12期還暦同窓会の皆様から本校の教育研究支援基金へのご寄附の贈呈式がありました。また、安部龍太郎先生からも本校図書館の充実に向けてご篤志を頂戴しました。

<写真説明>



会場の様子

会場の様子



第12期還暦同窓会幹事北御門様から三川校長への寄附金の贈呈式